

TOPICS  
1

## トピックス…①

平成30年度酪農教育ファーム  
認証研修会の概要（東京会場）

本会議は、11月13日、東京都港区の港区商工会館で平成30年度の酪農教育ファーム認証研修会を開催した。研修会の目的は、酪農教育ファーム活動のねらいと意義、認証制度の仕組み、酪農体験学習時の安全・衛生対策などを学ぶとともに、酪農教育ファームファシリテーターの役割について理解を深めることにあり、東京会場では40名が受講した。

研修プログラムの中から、「酪農教育ファーム活動における安全、衛生対策の確認」と「ワークショップ」について、その概要を紹介する。

## 1. 酪農教育ファーム活動における安全、衛生対策の確認

安全、衛生対策の確認のプログラムでは、島田亘氏（千葉県農業共済組合連合会 中央家畜診療所 係長）が講師を務めた。

島田氏は、「酪農教育ファームにおける安全・衛生対策の確認」と題した内容で、酪農教育ファーム活動をおこなう上で注意しなければならない受け入れ前に実施しておくことや、体験者の安全・衛生を確保し安心して行える酪農体験について、事例を踏まえながら紹介した。さらに、口蹄疫対策（防疫対策）についても、飼養衛生管理基準を元に説明した。

## (1) 受け入れ前に実施しておくこと

- ・ 要注意牛と異常牛
- ・ 危険エリアと見学可能エリア
- ・ 畜舎周囲の整理整頓・清掃・消毒
- ・ 薬品類の管理
- ・ 害虫駆除
- ・ 農場出入り口の消石灰
- ・ 牛舎出入り口の踏み込み消毒槽
- ・ 手洗い場の準備・石鹸の確認
- ・ 保険の加入 酪農体験学習マニュアル
- ・ 手作り体験実施には保健所への確認

## (2) 酪農教育ファームにおける安全・衛生対策の確認

## 1) 安全

- ① 危険区域の事前確認
- ② アレルギー体質の子どもへの配慮
- ③ 熱中症対策
  - ・ 木陰など涼しい場所で話す
  - ・ 外なら帽子
  - ・ こまめに水分補給
  - ・ 年齢（子どもと高齢者に注意）
- ④ 怪我についての留意

## 2) 衛生

## ① 家畜

- 人から牛へ伝染
- ・ 口蹄疫
- ・ BVD-MD（牛ウイルス性下痢粘膜病）
- ・ RSなどウイルス性呼吸器病
- ・ ロタ、コロナなどウイルス性下痢症
- ・ サルモネラ症
- ・ 黄色ブドウ球菌
- ・ ヨーネ病

## ② 訪問者

- 牛から人へ伝染
  - ・ 病原性大腸菌O157
  - ・ クリプトスポリジウム
  - ・ 破傷風
  - ・ リステリア症
- 「感染症の基本対策」

- ・ 入れない（出入り口の消石灰・靴底消毒・ブーツカバー）
- ・ 扱げない（動線の確保・踏み込み消毒槽・健康観察・ワクチン・害虫駆除）
- ・ 持ち出さない（牛舎を渡り歩かない・汚れのつきにくい服装・着替え・手洗い）

## 3) 生乳の取り扱い・乳製品の手作り体験時の注意点

## (1) 生乳の取り扱いの注意点

- ・ 搾った生乳をその場で参加者に飲ませてはいけない
- ・ 手作り体験の原料は市販の牛乳を用いる
- ・ 不特定多数へ販売・譲渡する場合は許可が必要（食品衛生法、乳等省令）

## (2) 乳製品の手作り体験時の注意点

- ・ 原料は市販のものを使う
- ・ できるだけ屋根の下や日陰で
- ・ 良く手を洗う（アルコール消毒も）
- ・ 体験の順序を考える
- ・ 作ったものは持ち帰らない
- ・ 容器は加熱殺菌できるもの

◇ 体験受入れ時や出前授業など、牧場受け入れ以外の場所での遵守事項

- ① 体験前後の手洗い
- ② 体験前後の靴底消毒（手洗いとセット）
- ③ 海外や他農場からの病原体の侵入防止
  - ・ ファシリテーターが手洗い、靴底消毒ができたか必ず見届けること

## 2. ワークショップ「話し上手はきき上手」～積極的傾聴でコミュニケーションの力を磨く～

ワークショップのプログラムでは、上田融氏（NPO法人いぶり自然学校 代表理事）が講師を務めた。

上田氏は、ワークショップ（参加型のプログラム）の中で、コミュニケーションに関する講演をした。コミュニケーションは「話す」だけでなく、相手の話を「きく」ことも大切なスキルであり、講演では、「きく」ことに焦点を当て、自分のきき方を確認するとともに、プログラムの中で色々な「きく」に触れ、「きく力」を向上させるきっかけをみつけた。



【研修会の様子】



【受講者の皆さん】

